

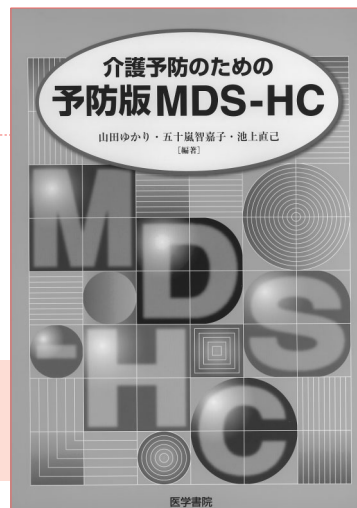
介護予防プランにおける 状態像の把握が容易に

[評者] 北山達朗 七尾市地域包括支援センター所長

介護予防のための予防版 MDS-HC

山田ゆかり/五十嵐智嘉子/池上直己

定価 3150 円(本体 3000 円+税 5%) 医学書院 03-3817-5657



要支援者に対してアセスメントを行なう場合、要介護者に対するようなアセスメントシートはなく、介護予防サービス・支援計画書にある4つの項目〔①運動・移動について、②日常生活(家庭生活)について、③社会参加、対人関係、コミュニケーションについて、④健康管理について〕によってアセスメントすることになっています。

ある訪問時にこの4つの項目でアセスメントし、いざプランを作成しようとした時、気付いたことがありました。①本人の全体像がつかめていない、②ケースが情報不足で整理しにくい、③4つの項目だけでは、本人の問題点のみに気が取られて、ほかの情報を収集し忘れる。

そこで、何か要介護者に対するアセスメントシートのようなものがないかと探したところ本書の存在を知り、試しに本書を用いて実施してみました。

まず実際に訪問して、利用者の情報を記入します。そしてその結果トリガーされた(注：要検討候補項目として抽出されることを指します)領域を、予防プランのアセスメント4項目の領域との関連性を頭に置き

ながら、トリガー領域ごとに検討しました。すると、このトリガー機能により本人の状態像が把握しやすく、検討すべき課題が明確になり、プラン作成がスムーズになりました。また、つい問題点ばかりに目が奪われがちなケースも存在すると思います。しかし、そのような場合でも、このシートによってアセスメントに必要な情報を満遍なく収集することができ、ケースを全体的にとらえられるようになりました。さらに、本人の強い思いだけにとらわれず、的確にアセスメントすることが可能となり、意思に関連した情報も収集でき、本人にケアの方向として提供できることにも気付きました。

私のケースを集計すると、「転倒」「うつと不安」「健康増進」の3つの領域が90%以上の割合でトリガーされており、「転倒」においては外的要因や内的要因が、「うつと不安」においては本人の思いや生活状況、身体状況が、「健康増進」においては利用者の意欲が、それぞれ改善に重要なポイントとなっています。これは適切にアセスメントして、関連する状況を検討することによって、課題やケアの方向が明確になるというこ

とかと思います。

また更新時においても、アセスメントシートを比較できるため前回の状態との変化を把握しやすく、要支援から要介護、要介護から要支援に認定された時もアセスメントシートに基づいて客観的に情報が提供しやすいため、引き続きケアマネジャーも状態像を把握しやすいのです。

要支援の予防プランでは、意欲や意思がプランの実施に大きく影響することから、本人とのかかわりやコミュニケーションを取りながらアセスメントすることで、その人の生活の全体像を捉えることができ、生きがいのあるプラン作りのヒントが得られます。

プラン実施に必要な本人の状態を把握していなければ、サービスに活かせないばかりか、問題点に捕われて、介護予防の効果を最大限に発揮する「自立した生活」を営むことができません。私は介護予防プランにおいても、支援すべき課題を明確するためのアセスメントの重要性を改めて感じています。今後もこのMDSを利用して課題が明確になるアセスメントを続けながらプランを作成していきたいと思います。